

【不祥事根絶に向けた本校の決意】（行動基準）

- ・教育公務員として、法令を遵守し、高い倫理観と使命感をもって、職務を遂行します。
- ・教職員一人一人が主体性を持ち、互いに声をかけあい、チーム幸千として、生徒・保護者・地域に信頼される学校・教職員をめざします。

不祥事根絶のための行動計画

福山市立幸千中学校
作成責任者 校長 藤井 護

区分	本校の課題	行動目標	取り組み内容	点検方法・時期
教職員の 規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○公務員には身分上の義務があるという基本的認識が不足している。 ○服装や身辺整理、時間管理などについて不十分な教職員がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修方法の工夫を行い、研修効果を能動的に実感できるようにする。 ○平素より声をかけ合う、チームとして動くなど、幸千中学校教職員の一員である意識を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対話やプレストなどを用いた研修を設定し、より主体的に研修に参加できる工夫をする。 ○服装や身辺整理、時間管理などについて、学年主任・管理職から積極的にアプローチする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修後にアンケートを取り、その意見の共有化を図る。 ○連絡プリント等を媒体にし、頻繁にアプローチし、点検する。
学校組織としての 不祥事防止体制の 確立	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員一人一人が組織の一員であるという自覚が薄く、全体をみて主体的に動けない傾向が強い。 ○主任・主事など、リーダーを中心としたチームが作れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員同士のコミュニケーションをしっかりと、「誰一人とりのこさない」チーム作りを推進する。 ○主任・主事を中心にした研修を設定し、組織として仕事を進めることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員一人一人がテーマに沿った服務研修を行う。 ○特定の職員に負担がかからないよう、チームとしての仕事の在り方を主任・主事を中心に確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長期休業中に、教職員主体の服務研修を実施する。 ○企画委員会・学年主任会で情報交換を行い、状況把握、学年を越えたサポート体制をつくる。
相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰・セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知が年度当初のみである、認知度が低い。 ○教職員の中で、生徒を中心においた体制が十分できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰・セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知を繰り返し行う。 ○生徒個々の状態を教職員間で共有し、担任だけで解決しようとせず、主任・主事等、管理職との連携を密に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相談窓口について、学校だより等で保護者に周知するとともに、校内全ての教室にポスターを掲示する。 ○保護者から出された意見等を、学年、管理職、学校全体で共有化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期末に生徒、保護者及び本校教職員を対象にアンケートを実施する。